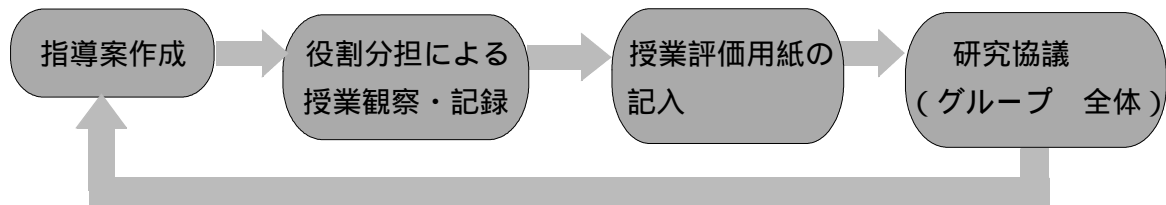


## 2 各自が役割をもつことにより、全員が主体的に研究協議に参加する協働体制づくりを図る

### 【概要】



指導案に、授業者が研究仮説をさらに具体化した授業仮説を明記する

校内研修では、研究主題のもと、研究仮説を立て、めざす児童像に向けて全員が研究実践する。授業研究の際には、授業者が研究仮説をどのように具体化し、どのような子どもの姿が授業で現れることをめざしているのかを指導案に明記することにより、めざす子どものイメージをより明確にすることができるとともに、その手だてについても具体的に考えることになる。

< 授業仮説の書き方の例 >

- 1 授業仮説の言葉について本時におけるとらえ方を記述する。
- 2 具体的な手だてを記す。

本校の研究仮説は、「単元構想や授業形態の工夫をしながら、課題解決の学習過程に子ども達の話し合い活動を組み入れることにより、主体的に課題解決に取り組む子ども達の姿が増えよう。そうすることにより、子ども達の個性が伸びていこう。」である。これを受けて、本時は、話し合いの形態と話し合い方について工夫していく。

具体的には、ペアでの話し合いを重視し、友達との意見の交流の場を増やすことと意見の交流の仕方を身に付けることを試みることにより、自分の考えに自信をもったり、考えを深めたりできるようにし、全体での発表につなげていけるようにしたい。「主体的に課題解決に取り組む姿」とは、「積極的に友達のことを聞こうとしている姿」「友達と自分の考えとの違いを書いている姿」だと考えている。

ペアでの話し合いは、自分の考えについて、ワークシートを見せながら相手に説明する 聞き手は、その発表に対して、必ず意見・質問・感想のいずれかについて話す 友達の意見との相違を記号で示す という流れで行い

たい。また、自分と同じ読みの者や違った読みの者を自由に選択し交流するなど、ペアの相手を自由に選べるようにすることで、交流への意欲を高めたい。

授業仮説を記入することは、授業者が研究主題や研究仮説を意識するだけでなく、指導案検討や研究協議などのたびに、研究主題について全員が確かめ合い深め合う機会となる。めざす子どものイメージも、より具体的になる。つまり、めざしている研究の方向を明確にしているのである。

役割分担に従い授業観察をしたり、協議会に参加したりする

VTR		
カメラ		
全体(教師・生徒)		
着目	( ) ( )	( ) ( )
学習	( ) ( )	( ) ( )
学習		

授業観察の役割分担表の例 ( ……メンバー)

効果的な授業研究となり研究内容に迫る協議になるためには、協議内容を何にするか、そのために授業をどのように観察し記録をどのように残すかが重要なポイントである。

例えば、着目児の学びを通した授業評価と授業全体を通した授業評価の2つの視点から研究協議を行うとする。そのために、上記のような役割分

担に従い、授業観察を行う。とった記録を後の協議や授業研究のまとめに生かすようにする。

一人ひとりが責任をもって観察し記録に残すことや、その立場からの意見を述べることを繰り返すことにより、研修が徐々に主体的になってくる。

意見をもって協議に参加できるように、評価用紙に感想や意見をまとめる

協議に入る前に時間をとり、授業の評価用紙に記入することで自分の考えをまとめることができる。そのためにも、視点を明確にした以下のようなシートを準備することは有効である。

なお、このシートは協議後には、授業公開した者に公開してくれたお礼に渡すとよい。授業者に渡すことにより、時間が足りず、協議に取り上げられなかった事柄についても伝えることができる。

月 日( ) 年 科 授業評価用紙 ( )				
	授業仮説	発問 指示	授業の 組み立て	教師の支援
学んだこと				
問題にした こと				
全体的な感想				

研究協議の全体司会やグループ協議のまとめ役を輪番制で交代する

授業研究の回を重ね、慣れてきた頃から、全体司会やグループ協議のまとめ役を輪番制にし、いろいろな者が経験できるようにする。

例えば、国語ブロックと算数ブロックの2つに分かれた研究組織をとった場合、国語科の授業研究に際しては、国語ブロックの者で全体会が進行できるような体制をとる。指導案検討の時からブロックで話し合う機会を作ることで、授業者の意図も理解しやすいと思われる。授業公開の前には、再度ブロック研修を行い、協議会の進め方につい

での打ち合わせを行っておくとよい。

研究協議の流れ(司会・進行: )  
 授業者の自評 ……メンバー  
 質問 ……リーダー  
 <グループ協議> 授業記録や授業評価用紙をもとに、研究との関連で話し合う。  
 研究の視点から ・子ども達は、目的意識や必要感を感じて話し合うことができたか。  
 ・課題別に学習形態を工夫したことは、有効だったか。  
 研究仮説から ・課題解決学習の学習過程に話し合い活動を仕組むことにより、主体的な学習態度は増えたといえるか。  
 ( 主体的 ……自分の考えをもつこと )  
 評価だけではなく、その理由や原因、および改善策を話し合うとよいのではないかと思います。  
 Aチーム ……  
 Bチーム ……

研究協議についての打ち合わせ用の文書の例

研究協議に全員が発言できるように、グループ協議を取り入れる



グループごとの積極的な話し合い

授業評価用紙をもとに、4～5名のグループに分かれて意見交換をする。少人数であるために発言の機会が多くなるばかりでなく、主体的に話し合いに参加しようという意識も高まる。また、まとめ役の者は、グループでの話題をまとめることが必要となり、その役割を果たすことも研修と捉えることができる。

また、回ごとにグループ編成を換えることで、いろいろな者と話し合う機会にもなる。日頃、スケジュールに追われ腰をすえて話をする機会があまりない学校現場においては、コミュニケーションをとる貴重な時間とも言える。

このように、授業研究に向けて各自が役割を果たしながら研究に参加することにより研究が深まり実践の方向もまとまってくるのが期待される。